

## 吾輩は財布である

東区・紫南支部  
(上ノ町・加治屋クリニック) 上ノ町 仁

吾輩は財布である。名前はまだ無い。

それは平成30年8月8日(水)午後6時25分のことだった。いつもの通り、会議に出かける主の鞆のなかでじっとしていたのだが、横道から突然出てきた車を避けようと、タクシーが急停車した。その時吾輩は鞆ごとタクシーの座席下の床に落ち、その勢いで吾輩だけそこからすり抜け床に置き去りになってしまったのだ。主は吾輩が床に放り出され一人になった姿には気づかず、鞆を床から取り上げ元の座席に置き、会議資料に軽く目を通しながら本日の挨拶を考えているようだった。

午後6時30分、タクシーが新屋敷を通過するころ、主が支払いのため鞆の中の吾輩を探し始めた。はじめは平然と吾輩を探していたが見つけれず、だんだん焦ってくる主。タクシーはどんどん目的地へ近づいていく。油汗をかきながら何度も何度も鞆の底まで繰り返し繰り返し吾輩を探すも見あたらない。当たり前である。吾輩は床にいる。アピールしても気づいてくれない。そしてどこかへ何回か電話したあと、午後6時35分タクシーはホテルに着いた。主は周りを見渡すも電話でお願いした人がいないようで、焦りつつ再度電話話し話し終えた直後に女性がやって来た。女性がタクシー料金を支払った後すぐに別の客が乗車し、タクシーは吾輩と客を乗せその場を後にした。主と最後の言葉を交わすこともない悲しい別れの瞬間であった。

午後6時30分、「もしもし、俺。家に財布忘れてないけ？」鞆に入れたはずの財布が見当たらない。何度探してもない。そこでタクシーの中から家内に電話し、まずは家の中を探し

てもらふこととなった。認知症？いやいや、確かに鞆に財布は入れたと思うが・・・、変な汗と軽い動悸が・・・会議のあるレクストンホテルが近くなりタクシー料金の支払いが迫っている。本当じゃない。とりあえず医師会館に電話したら田口君が出てくれた。窮状を説明し彼から中迫君に連絡してもらい、ホテルの玄関口に待機してもらおうようお願いした。そして再び鞆の中を探したが、やはり財布はない！午後6時35分、タクシーがホテルに到着したが・・・誰もいない。不安が募り再度田口君へ連絡すると、「今連絡がつかました」との返事。電話を切り視線をホテルのロビーに向けると、そこには駆け足の原田さんが見え、滞りなくタクシー代金を払ってくれた。そして、倉谷君は帰りのタクシーチケットを会館まで取りに行ってくれた。感謝と安堵と不安のなか再度家内へ電話するも、家にも車の中にも財布はないとのこと。心に暗雲が立ち込めた。

午後6時45分、会議の開始時刻が近づき挨拶をしなければならないが、財布の事で頭がいっぱいで落ち着かない。もう挨拶どころではない。再度家を出るときの状況を思い出してみるも、確かに財布は鞆に入れたのだが・・・。午後6時50分、先ほど家内が電話で「自宅の車の中も探したが見あたらなかった」と話した言葉にピンときた。なるほど、車の中だ。タクシーが急停車した際鞆が落ちた、その時財布だけ飛び出した、という仮説は成り立つ。となると、財布はタクシーの床の上に落ちているはずだ。間髪入れずタクシー会社に電話して「急停車の際、財布をタクシー内に落としたようだ。私を乗せてくれたドラ

イバーを割り出してこの件を連絡し、結果を私の携帯に電話して」と頼み、時を待った。

午後7時00分、会議が始まり、すぐに私の挨拶がやって来た。携帯を消音にして胸ポケットにしまい、気もそぞろに挨拶を体よくこなした。午後7時10分、胸の携帯が震えた。タクシー会社からの連絡だ。私の予想通りタクシーの床に落ちており、ドライバーが財布を確保しホテルに向かっているとのこと。中迫君がフロントに走り状況を説明し、午後7時25分、無事私の手元に財布が戻ってきた。助かった。そして、この55分は長かった。この財布騒動に迅速に対応してくれた医師会職員の田口君、中迫君、倉谷君、原田さんには大感謝である。そして、二度とこのような事がないように、何か策はないものかと思案した。

午後6時57分、タクシーの床に落ちている吾輩を、主が探しているとのタクシー無線が入った。ここにいることに気が付いてくれたと吾輩は安堵した。ドライバーは客を降ろしたあと、吾輩を拾い上げ急いでホテルへ戻りフロントに預けてくれた。フロントの方が吾輩を中迫君に託し、午後7時25分、中迫君から主へと手渡され、吾輩は主と感涙の再会を果たし、何事もなかったように再び鞆へと収まった。主の感謝と安堵の顔を鞆の中から垣間見た。

おや、主が何か思案しているようだ。何、落としたときすぐ分かるように、吾輩に鈴を付けようかだ！！

言っとくが、吾輩は猫ではない。